

活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第12号/平成17年7月29日発行 青森県立保健大学広報誌



平成17年度入学式



平成16年度卒業式



新入生合宿研修



オープンキャンパス

CONTENTS

学長挨拶	2
副学長就任挨拶・事務局長就任挨拶	3
新入生歓迎挨拶	4
新入生のことば	6
上級生のことば	9
新入生合宿研修	11
海外授業(オーストラリア)	14
国際看護師協会大会について	15

卒業証書学位記授与式・卒業記念パーティ	16
卒業生からのメッセージ	17
就職関連報告	18
自治会・サークル活動紹介	19
ベレノバ大学からの訪問	20
博士後期課程開設記念式典について	21
進学相談会・オープンキャンパス	22
人事異動	23

[学長挨拶／新入生歓迎のことば]

“青春”の稔りを期待して



青森県立保健大学
学長

新道 幸恵



健康科学部の新入生及び編入生計179人、健康科学研究科博士前期課程及び後期課程の新入生計30人、合計209人の新入生の皆様、本学のご入学おめでとうございます。教職員一同皆様に心から歓迎しています。

新入生の皆様は、学部であっても、研究科であっても、本学において健康科学を学問的基盤としてそれぞれの専門性を深め、ヒューマンケアの精神を基に、実践あるいは研究活動ができることを目標に学ばれることになります。

健康科学とは、人々の健康と生活の質の向上に関わる実践の科学です。健康科学部の皆様は、健康科学を共通の学問的基盤としながら、学科毎に目指す専門的な人材育成に必要な看護学、理学療法学、社会福祉学というそれぞれの学問体系からなる科目や関連科目によって構成されているカリキュラムで学び、それぞれの専門性を身につけることを目指すことになります。本学では、人々の健康と生活の質の向上に基本的な概念や方法論を3学科の皆様が共通に学習することを重視し、共通の科目を設定し、合同の授業を設けています。ここに本学の学部教育の特徴があります。健康科学という共通な学問的基盤をもつ専門職ならば、その専門性が異なっても、21世紀が求める保健医療福祉の連携協調が出来、人々の生活と健康の質を高めるという共通の目標に向かって、ケアやサービスを提供できると考えています。

博士課程の皆様には、健康科学の高度な実践に向けた方法論の開発や健康科学の学問体系の発展に寄与する研究によって、人々の健康と生活の質の向上に貢献することを目標に、学習されることを期待しています。

本学の理念に含まれていますヒューマンケアの精神は「ケアの本質」という著書に示されているミルトン・メイヤロフの考えを基にしています。ケアしケアされる関係の中で人々は互いに人間的な成長を遂げていくという考えです。それには、知識、リズムを変えること、忍耐、正直、信頼、謙遜、希望、勇気等が必要であるとメイヤロフは述べています。それらをケアの要素として、それぞれを説明していますが、大変含蓄があり、ケアの専門職には、示唆に富むものです。例えば、正直という要素については、次のように説明しています。自分自身に面と向かい、心を開くことであり、あるがままの相手を見つめることであると述べています。本学に入学された皆様は、ヒューマンケアの精神に基づいて、ケアやサービスを提供できるようになること、あるいは、研究活動を実践できることが卒業時点までの課題です。ヒューマンケアの精神は、人間関係の形成と豊かな教養によって育まれると言っても言い過ぎではないでしょう。学生という恵まれた環境を獲得された新入生の皆様には、色々な人々と正直に、そして希望や勇気を持って交流し、自然や書物に親しみ、人間的な成長に向けて努力されることを期待しています。

夢見ることをやめたときにその青春は終わるとある哲学者が述べています。八甲田山に囲まれた自然豊かなキャンパスで、夢を抱き、ふくらませ、のびのびとした青春の日々を過ごされることを祈念しています。

〔副学長就任挨拶〕

地域の人々と共にあゆむ
大学として

副学長
中村 恵子



県立保健大学は開学7年目になり学部の教育を基盤にし、平成15年度から大学院博士前期課程(修士課程)、平成17年度からは博士後期課程が開設されました。学部の3期生と大学院修士課程修了生が今年3月に巣立ちました。県内の様々な場で皆様に支えられながら、明日を夢みて活躍していることでしょう。さらに、今年6月から健康科学教育センターでは認定看護師教育課程(救急看護)と看護管理者セカンドレベルが開講します。特に救急看護認定看護師教育課程は全国で3ヶ所(東京、大阪、青森)のみの開講で、他の都道府県からも注目され17年度は県内はもとより九州、四国からも受講されます。

このように大学の人的資源、環境を活用し、地域の人々と共に歩み発展することを目指した教育・研究活動をとおり、保健医療福祉の向上を推進すると共に大学に期待され求められている地域貢献(社会貢献)を推進してまいりました。専門職は国家資格を取得後のOJTに加え、研修や研究あるいは大学院への進学によって自己研鑽をしつつキャリアを積んで参ります。本学は科目履修制度、研修生・研究生制度、編入学生など多彩な人々が教育を受る制度を設けています。また、市民への図書館開放、公開講座や研修会の開催、共同研究など教職員が一体になって地域に開かれた大学へと懸命に活動しています。しかし、その活動が分かりづらいとのご指摘も頂いているところです。これからは地域の人々が参加出来る大学、意見を頂き地域の皆様と共に歩む大学づくりへと、説明やPRをすることを念頭におき大学運営に寄与していきたいと考えています。

〔事務局長就任挨拶〕

気がつけば再び大学へ

事務局長
柏崎 勝



70年安保を目前に控えて世の中全体が何となく騒がしかった頃、大学紛争真っ只中で休講どころか大学封鎖も日常茶飯事だった頃、それが私の学生時代でした。

自然と大学からは足が遠のくばかりで、勉強とはずいぶん縁の薄い日々であったような。

当然の報いとして卒業には苦勞させられたこともあって、社会に出てからも試験の夢を見る有様で、そんなわけで、学校と名のつくところは二度と御免の筈が、あろうことか大学に通う身になろうとは、正直驚きました。

さりながら、この手の設計ミスはよくあることで、この機会に、今一度じっくり向き合うのも悪くはなかろうと、覚悟を決めた次第。

さて身の上話はいくぐらにして、本学は3年後の開学10年という節目の年に公立大学法人へと移行することになりますが、その準備に残された時間はそんなに多いわけではありません。

事務部門一つをとっても、広報や財務といった法人トップの経営戦略に直結する部門の人材育成や専門技術の学内蓄積はどうするのか等、課題は山積しています。

新たな歴史の一ページには、本学が県民に開かれた知的存在であることを念頭に、その在り方を大胆に書き込む。

他方では変化そのものを楽しみつつその扉を大きく開く勇気をもつ。

その頃に思いを馳せながら今後の物語りづくりに参加できればと考えています。

この“大学だより”が皆さんの目に触れる頃には、恰も開学当初からの住人であったかのように、大きな顔で闊歩しているかも知れません。

教職員の皆さん、学生の皆さん、時間が出来たら局長室へどうぞ。



Why English?

人間総合科学科目講師
Dennis Kelly



In my first year working here at this university, I took some students to Australia for the English Communication course. At that time, the students asked me, "Why do we have to study English, we came to AUHW to study Nursing, Social Welfare or Physiotherapy?" I was very surprised by this question, as obviously without having a concrete idea of the purpose of one's studies, motivation and application will suffer, and hence the level of success in the English program here at the university. That is why I chose to talk to you about English in the world and the English program here at the university during the opening ceremony in April. From my speech I hope you will be able to appreciate more how useful English can be in your life now and in the future. In this short article I will recap on the main points from my speech.

1. Communication: At a very basic level it is important to know that in terms of communication (via technology and travel opportunities) the world is getting smaller and smaller, and English is the international language of communication. The chances of you having to communicate in English are very much higher now than when your mother and father were young. Some examples of the world's increasing use of English are:

* One out of every five people speak English. The British Council put the figure at more than 750 million people.

* 1 billion people are currently learning the English language. So you could have to communicate in English to people from any country in the world.

* 80% of home pages are in English, while the next greatest, German, has only 4%, and Japanese 3%.

2. Travel: More and more Japanese are traveling overseas for enjoyment or reasons related to their work. The traveling experience helps to broaden; experiences, knowledge, ways of thinking, understanding, and acceptance of difference.

3. Entertainment: Through English, your entertainment access and options are increased for movies, music and books, and you can often buy books and DVDs in English much cheaper than in Japan, via English internet sites from other countries.

4. Work: As professionals you will have to keep up to date or brush up with the newest information in your field. This information is important for you to do your job properly and more often that not this information will be in English (articles and conferences). As professionals you will need to analyse new information and research for yourself. You can not always rely on other people's interpretation of such information. Also, foreigners living in, and coming to, Japan are increasing, so anywhere you go, or even if you stay here in Aomori, the chances of you having to use English to communicate in your work are increasing everyday.

自分を育もう

看護学科教授

リボウィッツ 志村 よし子



新入生の皆様及びご両親の方々ご入学心より祝福いたします。

① What Is Nursing ?

皆様がお選びになられた看護について少し紹介いたしたいと思います。英語では、看護師のことをナース (Nurse) といいその語源は、育むことを指し、看護 (Nursing) とは育む行為です。母親の授乳の行為もNursingであり看護の育みと重なり、非常に象徴的な言葉です。

② What Are You Going to Learn at AUHW?

それでは皆様は何を青森県立保健大学で学ぶのでしょうか？それはご自身を育むことです。自分でも気づかされていない、限らない可能性を育むことは、将来看護師として活躍するとき他の人々の可能性をも育みます。看護師は、疾病の予防、治療、健康への維持・促進に向けて患者・家族の皆様に専門職としての知識や技を道具として提供できます。このような交わりの中で、困難の中にある人々の命の強さ、なにげない会話の中で人間としての患者さんが見えてきます。言語、国籍、肌の色、年齢をこえて、多くの人々の生き様に感動させられる職業は、素晴らしいと思いませんか。また人の感情をおろそかにできません。嘆き、喜び、怒りは、共有すると倍になり、EmotionのEは、生のエネルギーのEになります。在学中は、大いに笑い、怒り、悩み、悲しんで友と共有し、豊かな感性を育んでください。

③ Let's Explore The Exciting World of Nursing!

本大学は、皆様の教育のNursery(育みの場)です。皆様は、将来の日本・世界を担う大切な種です。教職員、友人、ご両親、これから出会う未知の方々は、皆様を育て下さる大切な肥料です。学習者として原点に戻り自分の可能性にチャレンジしましょう。また日本のみでなく、世界に目をむけてください。世界での活躍の場が、あなたの成長を待っております。そして青春という命を、本大学でおもいきり謳歌してください。



「ほけんだい」で 大学生活を

理学療法学科講師
三浦 雅史



新入生そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。また、保健大の一員となられたこと、心から歓迎致します。さて、私事で恐縮ですが、数年前まで大学生、大学院生をしておりました。その経験から大学生活を送る上でのポイントを「ほけんだい」を題目に「あいうえお作文」で少し述べたいと思います。

ほけんだいの「ほ」は、「本を読みましょう」です。やはり書物から得られる情報は将来の大きな糧となります。身近なところでは教科書でも良いかと思えます。必然性がない時は必ずしも熟読する必要はありません。パラパラと眺め、おおよそどの辺りにどんな内容が書かれているかを見るだけでも、いざという時に役に立ちます。ほけんだいの「け」は、「健康に気をつけて」です。大学生活を送る上で身体は基本となります。運動、栄養、休養のバランスを考えて行動しましょう。ほけんだいの「ん」は、「じかんを守る・うまく使う」です。大学の4年間はこれまでの人生の中でも最も速いスピード感覚で流れていくと思えます。学問も遊びも恋愛も目一杯に取り組んで下さい。ほけんだいの「だ」は、「大先生を活用しよう」です。本学には約100名の専門家がおります。この数は他の国公立大学の中でも群を抜いています。空き時間を見つけ、多くの先生とDiscussionしてみてください。ほけんだいの「い」は、「いつもニコニコ挨拶をしよう」です。これから皆さんは保健医療福祉の専門職を目指すわけです。想像してみてください。病院などで挨拶もしない職員に出会ったらどのように感じますか。学内に居る時から習慣付けて下さい。

まずはここで述べた5つのポイントを実践してみてください。きっと、素晴らしいプロフェッショナルになれると信じています。さらには多くの患者らのためになると信じています。

思いやり、同情に ついて

社会福祉学科教授
入江 良平



御入学おめでとうございます。この歓迎の挨拶では「同情」ないし「思いやり」についてお話ししようと思えます。他人の苦悩や不幸を自分自身の苦しみや不幸のように感じるという心の働きです。

「同情」とか「思いやり」という言葉は現代ではあまり流行りません。現代社会のおおかたを支配するのは経済原理と公正原理です。「同情」「慈悲の心」は現代社会の周辺に押しやられています。せいぜいで、好ましい特性、まっとうな市民が装うべき徳目の一つ、あるいは私的な感傷という扱いしか受けていません。

しかし、自分自身の心の動きを率直に観察してみれば、他者の苦悩や不幸に対する反応は当為によるものではなく、自然的な現象であること、そしてこれがときには自分の苦しみ以上に私たちを苦しめるということがわかります。哲学者のショーペンハウアーは「同情」という心の働きの中に、現象世界ではばらばらに孤立している人間が分有する普遍的な基底が顕現するのだと主張しています。また孟子は「忍びざるの心」および「惻隱の心」という言葉で同じ思想を説き、これを人倫の根本としました。これは建前などではなく、人間の深い自然に由来するものであり、ショーペンハウアーによれば、これは宇宙的な力の人間における現れなのです。仏や菩薩の慈悲、キリスト教における愛の観念の中にも示されており、競争と公正の父性原理に対する和と受容の母性原理です。対人援助において人はこの宇宙的な力と直接に接触します。そこに近代的な壮大華麗はないとしても、そのことの自覚はこの仕事に深く確かな基盤を与えてくれます。

とはいえ、この宇宙的な力は両面を持っており、一面化すれば人を現実から遊離させます。そのとき、慈悲が他者の自立を圧殺したり、援助者自身を燃え尽きさせたりするというのを最後に述べて締めくくりといたします。



新たなスタート

看護学科
1年

相内 ひとみ



まだ雪が残り、肌寒かった入学式から早二ヶ月が経ちました。入学前は、不安や緊張で胸がいっぱい、大学生活をやっているのだろうかと思っていましたが、徐々に新しい環境に慣れてきました。入学してすぐに行われた新入生合宿研修は、私にとってはとても良い合宿でした。不安の一つであった新しい友達作りには絶好の機会、同じグループの人と仲良くなることができました。初めこそは、気まずい雰囲気が漂っていましたが、話を始めるとみんなの高校時代のことや、出身地のことなどで盛り上がりとても楽しかったです。また、先輩や先生方へも質問・コミュニケーションを取る時間が設けられ、私はこの時間でだいぶ気持ちが楽になりました。なぜなら、みなさんとても優しく、困ったことがあったら何でも相談すれば良いのだと思えたからです。合宿研修という出会いの機会を頂いて、本当に良い経験ができました。

大学の授業は、やはり高校の授業とは違って内容が濃く、またペースが速くて大変ですが、頑張らなくてはなりません。大学での授業を受けていて、最近つくづく自分で考え・自分で学ばなくてはならないのだと実感しています。ある先生が「色々な分野の本をたくさん読んで知識をつけなさい。」とおっしゃっていたので、これから私は読書の習慣をつけたいと思います。

私はまだ四年間という大学生活の一步を踏み出したばかりで、わからないことばかりです。毎日、学ぶことがいっぱいについていくのに必死の状態ですが、自分の目標を見失わずに歩んでいきたいです。また、人との関わりを通して視野を広げ、多くのことを得たいと思います。これから、人間性豊かな看護師となれるように日々努力していきたいと思っています。

保健大学に入学して

理学療法学科
1年

三上 明香



私が青森県立保健大学に入学してから早くも2ヶ月が経ちました。入学してすぐは新入生ガイダンスや新入生合宿研修等があり、慌ただしい日々を送りました。私は大学のシステムを全く知らなかったため、履修登録の説明を受けた時、どうすればいいかわからず戸惑いました。しかし、合宿研修の時に先輩方から授業に関するためになる話を聞くことができ、非常に参考になりました。

授業が始まってから2ヶ月ほど経ちますが、今になってようやく慣れてきた気がします。高校の時とは大きく異なり、自分の席なんか決まっていません。ただ待っているだけの受身の姿勢ではいけないのです。選択科目やゼミにおいては自ら選び、自ら行動にうつさなければなりません。主体性が求められているのです。理学療法学科に入ったということは将来理学療法士になるということです。大学で専門的な知識や技術を学ぶことはもちろんですが、そこで終わりではありません。日々医療技術は進歩していくので、専門職に就けば学び続けなければいけません。だから主体的に学ぶ姿勢を大事にしていきたいと思っています。

理学は人数が少ないこともあり、みんなすぐに仲良くなり毎日楽しく過ごしています。また先輩方とも接する機会があり、選択科目や授業について教えてくれたり、アルバイトを紹介してくれたりと大学生活全般においてアドバイスしてくれて非常に助かっています。縦のつながりだけでなく、他学科との横のつながりも英語やゼミであります。そのようなつながりを大事にして多くの人と交流を深め、知識や技術を身につけるだけでなく人間性も養っていききたいと思っています。そして、これからの大学生活を通してさまざまな面で成長し、将来は理学療法士として貢献できるよう頑張っていこうと思います。



新たなスタート

社会福祉学科
1年

佐久間 理恵



保健大学に入学して、早いもので二ヶ月が経ちました。今は大学生活にも大分慣れて、毎日を楽しそうに過ごしています。しかしながら、入学当初の私の胸には、新しい大学生活への期待よりも不安や緊張の方が少し大きかったように思います。初めて親元を離れての暮らし、大学生活、授業、友人と全てが新鮮であり不安でもありました。そんな私が抱いていた不安感も、同じ道を目指す友人や先輩、先生方との出会い、また日々の授業やサークル、ボランティア活動を通して、次第に取り除かれていきました。特に、入学後まもなく行われた新入生交流宿泊では、同じ学科の友人と親しくなれる機会が多く、また先輩や先生方に相談・質問をすることができ、保健大学の雰囲気を知る良い機会になったと思います。

授業では社会福祉の専門科目が始まり、福祉という言葉の意味や歴史、社会福祉に関する法令など初めて知る言葉が多く大変ですが、その分新たな発見もあり学ぶことが多いです。専門科目以外では英語や情報の授業があり、特に英語ではネイティブの先生の発音や会話表現を学ぶことができ、とても楽しい授業です。また人間総合科学ゼミでは、自らテーマを決めて資料を集め、論文にまとめる学習を行っています。自分で決め研究することは、難しいですがとてもやりがいがあると思います。

この二ヶ月間は、大学生活に慣れるのに精一杯でしたが、これからは充実した大学生活を送るために、将来をしっかりと見据え、主体的に学習していきたいと思っています。そして多くの友人を作り、様々な経験を積み、有意義な四年間を送りたいです。

久しぶりの学生生活

看護学科3年
(編入生)

佐藤 恵子



ようやく春らしい陽射しが差し込むようになり、ふと気が付くと大学生活も二ヶ月が過ぎようとしています。働いていた頃とは180度違う生活に、体も気持ちも大分慣れてきたなと感じられるようになりました。

私は看護師として病院で働いてから編入したので、当初は大学生活に対する不安が多々ありました。久しぶりの授業についていけるだろうか、年の離れた同級生とうまくやっていけるだろうか、課題や試験は大丈夫だろうか、等、一時は編入するのを辞めようかと思った程でした。しかし長年臨床を経験して、新たな自分の課題を見つけたり、疑問を感じたりしていたので、思い切ってもう一度学ぶ事を選びました。今ではそんな不安は乗り越し苦勞だった、大学入学を選んで良かったと思っています。講義では新たな学びを得られ、自分に欠けていた部分を思い知らされましたし、同級生も、皆若くて可愛くて、魅力的な人ばかりです。

ただ、一年から三年の授業を履修しているため、授業が重なっていたり、課題が一度に出たときは大変だと感じる事もありますが、それも自分の実になると思えば、やりがいがあります。

世の中には私のように一度社会に出てから、もう一度学びたいと考える人はたくさんいると思います。ですから、大学にはそのような人達に学ぶ機会を提供し続けて頂きたいと思います。私も今回再び学ぶ機会を与えてくれた大学に感謝しています。このチャンスを無駄にしないよう、これから多くの事を学んで自分を深めていきたいと思っています。



常に学び続けたい



大学院：博士前期課程
1年

倉内 静香

私は、弘前大学医療技術短期大学部で看護を学び、地域看護に興味を持ち、宮城県総合衛生学院公衆衛生看護学科に進学しました。在学中、地域看護のなかでも特に、地域の母性看護に関心を持ち、さらに専門的な知識をもって対象者と関わりたいと思いました。そのため、母性看護についてより理論的に学ぶため、また助産学について学ぶために、大学へ編入しました。そして今年3月に、山形県立保健医療大学を卒業し、青森県立保健大学大学院に進学しました。

5月から本格的に授業が始まり、本大学院では知識教授型ではなく、ディスカッション形式での授業が多く行われています。多くの臨床経験者や、それぞれの専門分野を深く学んでいる専門看護師を目指す人達と授業を一緒に受けています。そのような方々と意見交換できる授業は新たな看護についての知識、考え方を発見する場であり、自分自身を見つめる刺激的な機会でもあります。さらには、これまで著作物を通してしか学ぶことができなかつた先生方から直接講義を受け、ご助言いただけることも、とても嬉しく思っています。このような恵まれた環境の中で、自分の知識・専門性を高め自分を磨き、卒業後、ここで得た知識・能力を地元地域に還元することができるように頑張りたいです。

在学中には、自分の行動範囲を学内の授業にとどめず地域にも広げ、直接地域の方と関わることができる活動に積極的に参加したいと思います。そこでいろいろな立場の方々からのお話を聞き、接する相手の気持ちを理解できる思いやりをもった人間になれるように、常に学ぶ姿勢を持ち続けたいと考えています。2年間という短い期間ですが、修士論文として自分の研究の成果をまとめられるよう、努力したいです。

最後尾のランナー



大学院：博士後期課程
1年

千葉 敦子

先日、小学校の運動会を見に行きました。高学年全員参加のマラソンが始まりました。グラウンドを2週したあと、校外をまわってグラウンドに戻ってくるというコースです。グラウンドを2週している間にある男の子が明らかに遅れをとっていました。子どもたちが、校外をまわり続々とグラウンドに戻ってくるのですが、彼の姿はまだ見えません。彼以外の子どもたちがみんなゴールをきった後でようやく彼がグラウンドに姿を現しました。見ていた観客は一斉に拍手をし、司会は盛んに「最後までがんばってください」とマイクで連呼し、みんなの注目の中で彼はゴールインしました。

私はその場において、体全体がざわざわというより、まさに“うじゃめぐ”気分を味わっていました（津軽の高齢者は体の状態を表す言葉としてよく使います）。決して感動していたのではなく、その場から逃げ出したいような、いたたまれないような、せつないような・・・。

そのことを人に話したところ、自分なら拍手をして声援を送ると答えました。同じ現象を見ていても、私の生き様、価値観から私はそのように感じ、その人はまた別な解釈をするのです。小学生はどんな気持ちで、何を望んでいたのでしょうか。皆様だったらどうですか。

ヒューマンケアは、その個人に応じたよりよいケアが求められ、そのために種々の研究が行われます。人間相手の研究、ケアの難しさを感じます。真実の一つではないでしょう。人によって違いがあつて当然です。しかしいくつかの傾向が明らかになることで、より効率的にその個人に応じたケアを考えることができるのだと思います。そこに看護の質的研究の意義があるのではないかと考え始めているこの頃です。

さて、私は小学校から数えて8度目の入学式をむかえました。すでに最後尾ランナーの心境ですが、Lifeを楽しみながらマイペースでがんばっていきたいと思っています。



新入生のみなさんへ

看護学科
3年

古澤 菜子



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して数ヶ月経ちましたが、大学生活はいかがでしょう？

私は三年生になり今思うことが二つあります。その一つは、もっと真面目に授業をうけていればよかった…です。三年になり、基礎がわかっていないということに気づき、とても今焦りを感じています。授業は本当に自分のためになります。教科書を読んでもわからないこと、書いていないことを、先生たちはたくさん教えてくれています。それぞれの先生の特徴をつかみたくさん授業を利用して下さい。

そして二つ目に思うことは、もっと遊んでおけばよかった…です。大学生活は本当にあっという間です。1、2年生のうちにたくさんの友達と、たくさん遊んで下さい。少くらしい寝不足でも、意外と元気だったり、遊びすぎかなあと心配しても、それくらいでちょうどよかったり、きっと新しい発見や、心がドキドキワクワクするようなことに、たくさん出会えるはずです。大学生活は今しかありません。大人になり自分を振り返ったときに、「大学生活は本当に楽しかった！」と語り合えるような生活、とてもステキだと思いませんか？今しか出来ないこと、後悔しないようにしっかりと実行してください！

これからの生活で、大きな壁にぶつかることがあるでしょう。そんな時は、一人で無理せず周りに相談してください。まわりにはたくさん支えてくれる人がいます。一緒に不安を背負ってくれる人がいます。自分にはない新しい考えを教えてください。いくつもの壁を何度も乗り越え、大きく豊かな人間に、ともに成長していきましょう。

直心

理学療法学科
2年

時吉 健輔



題名に書いた『直心』という言葉は、中学時代に剣道部で警察学校へ出稽古に行った時、そこで剣道の指導をしている先生から教わった言葉で、「自分が信じた道を恐れず真っ直ぐ進んでいく心」という意味です。これまで新入生の皆さんは何らかの目標や夢を胸に抱き受験を突破して来たであろうと思われます。その気持ちを忘れずに、また妥協すること無く、勉強を続けていくことを期待し激励の意を込めて、私自身の座右の銘でもあるこの言葉を先に載せることにしました。

さて、前期も半ばに差し掛かり、日々の授業も本格的になってきていますが、大学生活には慣れてきたでしょうか？これからは実習や試験、レポートと更に忙しくなっていくと思われますが、私なりに最も皆さんに伝えたいことをアドバイスの形で1つここに書きたいと思います。それは時間についてです。時間をいかに利用していくか、が非常に大切であると私は去年1年間生活してみて気づきました。例えば試験やレポートに追われていると、夜更かしをしたりして生活のリズムが狂ってしまうかもしれません。そうして心に余裕が無くなってくと自主的な勉強・行動を取ることが難しくなります。時には力を抜いて集中力を立て直すためにも、時間にゆとりを作らなければなりません。ダラダラと同じことに無駄に時間をかけるなら、一旦忘れて違うことに力を向けた方が有意義です。バイト、授業、人間関係と、時間を割かなければならないものが数多い中で、偏らず、手を抜かないためにも自分なりの適した時間配分を見出し、無理しすぎて体調を崩すことなく、どんなことにもベストな状態で臨んで下さい。限りある時間の中で自分を最大限に活かし、いつまでも初心を失わず、共に日々精進していきましょう。



新入生のみなさんへ

社会福祉学科
4年

湖東 里美



新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。みなさんが入学してから数ヶ月たちましたが、大学生活はいかがですか？慣れてきたことも多い反面、まだ不安なこともあると思います。大学生活は、講義以外にもサークル活動や大学祭など様々なことがあります。そのような中で、私にとって勉強する場となり1番思い出に残っている実習について紹介したいと思います。

社会福祉学科は3年生になると、約1ヶ月の社会福祉援助技術現場実習があります。実習がとてもつらかったという先輩たちも多く、泣かない人はいないと言う先輩もいました。施設の一覧表を渡された時、特にやりたいことがはっきりしていなかった私は、施設を選ぶことも出来ず、先輩達の言葉を思い出し、不安な気持ちしか生まれてきませんでした。その不安を断ち切るために私は、様々な施設の見学やボランティア活動をしました。そのおかげで、実習の初日から特に緊張することもなく施設にとけこむことが出来ました。講義の内容と実際の現場の状況との違いに戸惑うこともありましたが、私はその時はすぐに実習担当の職員に尋ねるようにしていたので、とても充実した実習となりました。特に最終日は施設の子供達が私のためにお別れ会を開いてくれました。それは、1ヶ月間の疲れも忘れさせてくれるようなとても感動的なものでした。

1年生のみなさんは、私のように直前になってから焦るのではなく、自分がやりたいことを早い時期にみつけてほしいと思います。そのようなチャンスは、大学生活の中にも多くありますが、学外に出て活動することでより具体的になってくると思います。分野は限定せずたくさんのことに挑戦してみてください。その中で分からないことがあった時は、先生達や先輩達に相談することで解決に近づくかもしれません。分からないことをそのままにしておくのではなく、恥ずかしがらずに人に聞くことが大切です。

「ひと・もの・こと」との出会いを

大学院：博士前期課程
2年

幸山 靖子



大学院新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。今年度から博士後期課程が開設されましたことを大変嬉しく思います。

私は、看護師としての臨床経験や看護教員の経験を再構築すると共に、研究方法を学びたいと思い、20年ぶりに青森に帰省し院生としての生活を始めました。

大学院での学習は、プレゼンテーションなど自分の考えを問われる事が多く容易ではありませんが、先生方や仲間とのディスカッションは、英文の読解等に悩んだことも忘れるくらい刺激的で楽しく1年間が過ぎました。しかし、時には、思うように進まない課題や研究計画に悩み、焦り、先生方や仲間と相談したことも多々ありましたが、仕事や家庭など複数の役割を持ちながら頑張っている仲間からエネルギーをもらい、家族の協力もえながら進むことができたと思っています。また、焦る気持ちは通学の車窓からの四季おりおりの風景がなごませてくれました。

振り返ってみると、「ひと・もの・こと」との出会いを通し、改めて看護の専門職業人として「学び続ける」ということを再認識した1年間でした。

大事なことは、その出会いを自分がどう捉えるかということだと思います。同じように出会ったとしても、どのように出会うのか、どのように関わるかによって違ってくると思います。

これからの大学院生活の中で、困難な状況に陥った時には、自分の置かれている状況を一步離れて見つめ、必要なときには友人や先輩、先生方など人的な資源をもフルに活用して下さい。そして、時には視点を、青森の素晴らしい自然などに移し、仲間とともに楽しい時間も作って下さい。それらの経験が人間性を培い、保健医療福祉の専門職者としての基盤を作っていくのだと思います。お互いに頑張りましょう。

2005年度新入生合宿研修を終えて

新入生合宿研修実行委員会委員長 岩月 宏泰

第7期生を対象とした1泊2日の新入生合宿研修が青森県青年の家で実施されました。今回は新入生168名、編入生11名、上級生67名及び教職員90名の参加がありました。初日には人間総合科目のオリエンテーション、原田助教授による「禁煙セミナー」と大竹助教授による「マルチ商法等への対処方法」の講義の後、新入生は学科別オリエンテーション、専門職いざないと相談コーナーで教職員及び上級生と交流を図れたようでした。翌日は学生自治会メンバーによる司会で自治会及びサークルの紹介があり、次いで新入生は幾つかのグループに分かれ、綱引き、クイズ等のレクリエーションを楽しみました。ここでの体験が他学科の学生及び上級生と交流を深める良い機会であったように思います。

本合宿研修の準備、運営に携わった学生部長、実行委員に感想を報告頂きました。



オリエンテーション：自治会長あいさつ

裸のつき合い

学生部長 鈴木孝夫教授

本学恒例の新入生合宿研修。今年度の研修は開学以来7回目となり、第7期生が対象でした。当方、5年前の第2期生を対象とした合宿研修プロジェクトの委員長を務め、唯一の上級生であった2年生を交えての初のプログラム編成は、手探り状態の中で苦心した事を思い出します。「合宿研修」は、教員サイドからみるとある種マンネリ化したプログラム内容となっている。否、ならざるを得ませんが、新入生にとっては大きな不安の中、研修全体が今後4年間の学生生活の起点として、大きなインパクトを与えていることは紛れもない事実です。来年度からの研修は、「青年の家」の閉所に伴い大幅な変更を余儀なくされます。これまで同様の予算規模、プログラム内容を盛り込んだ研

修が可能かどうかについて、早急に結論を出さなければなりません。宿泊の中での裸のつき合い、「学生」と「教員」というワケをはずし心温まる交流になることを願います。



看護学科

新入生合宿研修を終えて

看護学科 土井委員

『新入生合宿研修』は想像していたより遥かに有意義なものであった。それは全く初めて会う人と話しをしなければならぬ状況におかれたことと、はっとさせられる程、上級生達の頼もしさを見ることができたことだ。いろいろな人と話しをしてみても、もちろん楽しいこともあっただろうが、何故この人はこんな話し方をするのかと嫌な思いも混在する状況を多く体験したはずだ。人間は他人を基本的には理解できないというが、ダメージを受けて、でも気を取り直して話さなければ結局その解決をみることはないという医療従事者として必要な実感がもてるいい機会ではなかったか。ついこの間まで新入生だとばかり思っていた新上級生達は新入生達の為に一生懸命であった。他に選択する進路はいくらでもあったはずなのに、何処でもなく、この大学を選んだ。その思いに大いに歓迎の気持ちを伝えたかったに違いない。誇らしく、そして頼もしく見えた新上級生達のように今の新入生達もきっと来年はそうなっていることだろう。その頃が今から楽しみだ。

新入生と対面して…

理学療法学科 藤田委員

理学療法学科の新入生とは学科別オリエンテーションでご対面となりました。教員と新入生の自己紹介等の後、歓談ということになりましたが、新入生の皆さんはまだ緊張していて、なかなか話できないようでした。理学療法学科は、教員数と

1学年の学生数が同数であり、圧倒されてしまったのかもしれませんが。夕食後のいぎない&相談コーナーでは、教員は殆ど退散して、上級生と膝をつき合わせての話となり、新入生の皆さんもやっと緊張がほぐれ、学生生活やその他の話題で大いに盛り上がったようです。ここ数年多くの上級生が合宿研修に参加して手伝ってくれるようになりました。新入生にとって教員よりも先輩の方が身近な存在であり、話しやすく、色々情報を得る中で不安も少なくなるようです。上級生にとっても、先輩としての自覚を持つよい機会になっていると思います。来年は、今回の新入生が先輩としてこの研修を大いに盛り上げてくれることでしょう。



理学療法学科

新入生研修を終えて 社会福祉学科 八戸委員

恒例の新入生研修が、雲谷「青年の家」で4月8日・9日の両日行われた。初々しい新入生の期待と希望に満ちた姿に、我々もいつもとは又違った緊張を感じる時である。(自らの学生時代であったり、昨年・一昨年の学生の姿であったり、時に我が愚息の一コマであったりする)。慌しく予定のスケジュールが過ぎて行く。ようやく我が科の学生との触れ合いは、全体オリエンテーションのあとの、学科別ガイダンスで可能となる。あれも、これも良くは判らない事柄だらけの中で、当然不安も膨らみかねない。相談コーナーに座っているとそれは良く見える。こちらから幾人かに声をかけ、どうぞ！と前の席についてもらい「まあ、ポチポチやるさ！今入学したばかりで就職は早いでしょう」と語りかける。時に新人をアフガニスタンの俚諺では「野を走り廻る鹿を追いかける郵便配達人」と喩えていますよなどと伝える。置いて行かれまいとする真摯すぎる学生のホッとする姿を見る。なかなか寝つかれない語らい(?)の夜を過ぎて二日目のレクリエーションとなる。

活気溢れる若人のパワーに年年歳歳ついていけなくなってきた、云々。このように大学生を迎え入れる新入生研修は、我々にとっても華やぐ季節の一コマとなっている。順調な学生生活への離着(ソフトラディング)を願わずにはられない。



社会福祉学科

Making Happy Campers 人間総合科学科目 Kelly委員

It is always going to be a potentially difficult situation, with around 170 very shy, young students, who probably away from home for the first time, who do not know each other, and are gathered together at a new place with new teachers. Despite the difficulty the majority of students seemed to be satisfied with the proceedings at the camp.

This being as it may, it is probably time to rethink what we are trying to achieve there. Are the students getting the most out of this occasion that they could? For example, do we need to be giving the students lots of information at this time? At this stage of their introduction to university life, students will be more concerned about having someone to confide in and sharing their experience than absorbing information, and what we do with the students at the camp can foreshadow their university experience in the years to follow. Therefore, would not the camp be better utilized by devoting as much time as possible to help them to make new friends? This is the surest way to help them adapt to a new lifestyle. It is a great opportunity for students to bond with their fellow students and teachers from different backgrounds, an opportunity that they do not

have again in their 4 years at this university. We have had some success with the English Presentation activity to date, but this is obviously of limited value due to the low level of the students' English. More activities like these, that provide opportunities for real communication, and done in Japanese, may prove to be useful to them.

The guiding question we should perhaps be asking students at the end of the camp, as to whether the camp has been a success for the students or not is, 'Did you make any friends?' If the vast majority of students should answer in the affirmative to this question, then we have clearly helped them to overcome the most difficult hurdle in adjusting to a new environment and lifestyle.



イングリッシュコミュニケーション

上級生と新入生との交流を通して

学生自治会会長 是川幸恵さん

私たち自治会では、入学式を終えたばかりの新入生が、少しでも早く大学生活に慣れ、先生方と、私たち上級生と、そして何より友達と、とにかくたくさんの人と交流が持てるような合宿研修を目指しました。それに向け、先生方と協力しながら準備し、たくさんの在学生の協力を得ながら当日を迎えました。皆で、自分たちが入学した頃はどんなことが不安だったのかを思い出しながら準備をすすめ、当日は少しでも新入生の不安を取り除き、楽しんでもらえるように、相談に答え、交流を図りました。うまく進められない部分もありましたが、新入生とプログラムの中だけでなく自由時間などいろんな場面で話したり、新入生同士が仲良くなっていたり、合宿研修を楽しそうに過ごしているのを見てみると、私たちが目指していた

ものは達成できたのではないかと思います。何より、私たち上級生も新入生と交流を持つ場に参加できたことはとても有意義だったと思います。来年以降もこのような機会があるかはわかりませんが、私たちの「大学生活に早く慣れて欲しい」という思いは何らかの形で残していければと願っています。



レクリエーション：長なわ&サークル紹介



合宿2日目の朝

新入生合宿研修を終えて

事務局 蛭沢主事

入学式が終わってすぐの合宿研修のため、新入生の皆さんは、まだお互いの顔もわからない状態での研修だったと思います。そのため、緊張と疲れはいつも以上だったのではなかったでしょうか。1日目のオリエンテーション前半では椅子に座りっぱなしのせいとか少し疲れている様子も見えましたが、イングリッシュコミュニケーションで先生方の紹介が始まると、会場の雰囲気や和らぎ、新入生の皆さんも和んでいるようでした。

その後の「学科別オリエンテーション」。「専門職のいざない&相談コーナー」、また、夜には新入生の皆さんはますます交流を深めたのではないのでしょうか。2日目のレクリエーションでは新入生は前日より緊張もほぐれ、また、上級生は新入生を上手くリードし、本当に皆さん楽しそうにレクリエーションに取り組んでいる様子でした。

最後に本研修にご協力頂いた教職員、学生自治会の皆様方にお礼申し上げます。

「一期一会」の大切さ

看護学科3年 福永 健治

私は今年の春休みに、オーストラリアのメルボルンへ三週間の海外研修に行ってきました。現地では多くの人達との出会いがあり、その中で私が強く感じたことは「一期一会」の大切さについてです。私が会った人達はひょっとしたらもう二度と会う事ができないかもしれない、だから私は後悔しないように三週間を過ごしました。もちろん、別れる際に寂しさや悲しさはありましたが、私はそれよりも彼らとすばらしい時間を過ごしたことに幸せを感じ「ありがとう」という気持ちが強く残りました。

これから私は実習や就職後に、多くの患者さんと接する機会があると思います。しかし、「一期一会」の大切さを忘れずに、悔いの残らないようなケアができるようになりたいと思います。また、残された学生生活においても、友達と多くの事を学び、楽しみながら、残り少なくなった時間を大切にすごしたいと思います。最後に、今回の海外研修に行くことを支えてくれた両親と、現地で私を温かく迎えてくれたホストファミリー、この二つの家族の支えがあったからこそ、すばらしい経験ができたと思います。本当にありがとう！



帰国後の大学正面にて

海外授業に参加して

理学療法学科3年 武藤 晶

私は、オーストラリアでの3週間、日本との様々な文化や習慣の違いを体験しながら充実した日々を過ごすことができました。バスに乗ることでさえ、毎回どきどきはらはらし、毎日が新しい発見と驚きの連続でした。オーストラリアの医療について学ぶ機会があったのですが、医療についても多くの違いがありました。多文化社会であるオーストラリアは、患者の文化に合った医療を提供しなければならず、言語の問題もあることなど、とても興味深い話を聞くことができました。また、日本と比べ在宅医療が普及していることにも感心しました。

日本では実際に学んだ英語を話す機会がなかったのですが、オーストラリアではもちろん会話は英語だけです。はじめはホストファミリーが何を言っているのか理解できませんでしたが、次第に聞き取れるようになりました。また、ホストファミリーだけでなく、地元の人やインドネシアの人達とも交流する機会があり、積極的に英語で話し、会話を楽しむことができました。

週末には、ツアー等でオーストラリアの自然や文化に触れることができました。煉瓦造りの教会や建物、コアラやカンガルー等の動物と、日本ではできない体験をすることができました。

今回の海外授業を通して、語学だけでなく海外の文化や社会、医療について学べたことは、私にとってとても貴重な経験となり、国際交流の楽しさを知ることができました。



卒業式で歌う歌を全員で練習している様子

ICN(国際看護師協会)4年毎大会に参加して

看護学科4年 奥村 千賀子



タイの学生達と

ができました。

今回ICN大会学生大会に日本代表として参加しました。参加にあたり、事前準備として、日本の国別報告書を作成しました。内容は日本の看護基礎教育の制度、看護学生生活や資金的な支援、書籍/コンピューター等へのアクセス、社会問題としての看護師不足、雇用市場とキャリア構築、さらに文化的感受性についてです。作成にあたり、日本の看護の現状や問題点を調べることや全国の看護学生から様々な意見を聞くことにより、日本の看護や看護学生について知ることが出来るとともに、多くのことを学び、考えることが

学生大会当日は突然の発表だったため、準備が十分でなく、大変緊張しましたが、学生の立場として、他国の学生に日本の現状を伝えることが出来たのではないかと思います。他国の学生の発表からは、他国の看護や看護における問題について知ることが出来るとともに、世界レベルで日本の看護についても考えることが出来ました。今回の大きなテーマであった文化的感受性については、資料作成の段階で大変苦勞しました。日本においては他の国と比べて外国人と接する機会が依然として少ないため、文化的感受性について考える機会が少なく、他の国の学生に比べ、討論する事が難しかったと思います。しかし、文化的感受性は外国人の数が年々増加している日本においては必要不可欠なものであるということを再認識することが出来ました。

また、他国の学生との関わりあいの中で、皆、自国、他国の看護の発展を目指しており、世界の人々を健康に導きたいという思いであることを強く感じる事が出来ました。今回の学生大会においては、他国の学生との間に自国との多くの共通点、相違点を見つけることができ、実りの多い大会となりました。それと同時に、他国の学生の英語力の高さ、ディベート力の高さに驚き、看護を世界レベルで考えるには英語は必要不可欠なものであるということを痛感しました。

ICN大会では、たくさんの口演を聞く中で、HIV/AIDSの口演が多く、また、学生大会では、南アフリカの学生による口演もありました。日本においては、学生の私にとって、身近なものではなかったので、改めてこの問題の重大さを感じました。口演を通して感じた事は、様々な経験から得た知識や学びを出来るだけ多くの看護師に世界レベルで伝え、世界の人々を健康に導こうと皆が思っているということです。

ICN大会は参加する前の硬いイメージとはかけ離れており、世界が一つになる看護のオリンピックのような印象を受けました。世界の人々の健康を考えている多くの看護師が皆で知識を分け合ったり、学びを深めたりするために団結しているようでした。

今回、学会で多くの国の人々と話し、多くのことを学ぶことにより、自国のことについて振り返ることができ、たくさんのことを考えさせられました。学会での学びを今後の学習に活かし、更に卒業後、自国、そして他国の看護の発展に努めていきたいと思えます。



開会式の様子



他国の学生達と



卒業証書学位記授与式について

卒業関連事業担当 鹿内総括主査

平成17年3月16日、近年にない積雪により残雪が目立つ中、保健大学第3期生の卒業式及び大学院第1回目の修了式が執り行われました。

看護学科104名、理学療法学科23名、社会福祉学科38名に対し卒業証書及び学位記が、大学院修了生22名に対し学位記が、新道学長から授与されました。授与に際し、別れを惜しみ、新道学長と固く抱き合う姿も見られ、また卒業生が一齐に「ありがとうございました!」との感謝のこぼれを送る場面もありました。

「21世紀の保健医療福祉を担う人材として国内のみならず、世界に羽ばたいて欲しい」との新道学長からの式辞に続き三村申吾青森県知事からも、「困難に出会っても、今日の旅立ちの日を思い出し、自信と誇りを持って歩み続けて欲しい。」との激励の言葉が贈られました。また、本学がご指導、ご支援を頂いている各団体や代表者からは、卒業にあたってのお祝いの言葉が贈られました。

学部在校生からは、看護学科3年伊丸岡大樹さんが「先輩方が3期生として本学に刻んだ数多くのものを受け継ぎ、頑張っていきたい」と送辞を述べ、これに対し、卒業生を代表し、社会福祉学科の竹澤紀子さんが「保健大学で学んだことを誇りとし、地域をはじめとして幅広い領域での人々の健康および福祉の向上に貢献していきたい」と答辞を述べました。

式典が終了したあと、卒業生及び修了生は、卒業後のアドレスを交換したり、教員と記念撮影をするなど、各々が別れを惜しみつつ、青空のもと本学を巣立って行きました。

第3期生卒業記念パーティ

卒業関連事業実行委員(社会福祉学科4年) 湖東 里美

第3回卒業記念パーティーは、平成17年3月16日に、青森国際ホテルで開催されました。当日はあいにくの雨模様で、きれいに着飾っていた卒業生のみなさんは、大変だったと思います。

この卒業記念パーティーは、2・3・4年生による学生主体の卒業関連事業実行委員会において企画・運営されたものです。開催に至るまでの準備にほんの少し携わった私たちですが、卒業研究・論文や国家試験などで一番忙しい4年生が中心となり、ホテルとの打ち合わせやパーティーの企画などをこなし、ひたすらついていくだけの存在でした。

パーティー当日は、会場のあちらこちらで最後の場を名残惜しむかのようにカメラのフラッシュが光り、お世話になった先生方や、共に勉強してきた友人と思い出話の花が咲き乱れていました。

「あんなこともあったね」友だちと笑っている人、「あのときは悔しい思いをしたね」と先生方と話をしながら涙を流す人…後輩の私たちにはそれぞれ先輩たちの4年間の垣間見られるパーティーでした。大盛況でパーティーを終えた4年生の実行委員は、とても嬉しそうでした。

4年生にとってこの卒業記念パーティーは卒業証書学位記授与式と共に大学生生活の締めくくりの行事となります。その卒業生の表情からは実習や卒業研究、国家試験など4年間の様々な苦しみを乗り越え、これから新しい道を進んでいく力強さを感じました。この青森県立保健大学を卒業することができた誇りを胸に、それぞれの専門職のスタートラインにたった卒業生の決意を見ることが出来る卒業記念パーティーでした。



「大学生活とは」



工藤 千恵美
(看護学科/H17.3月卒業)

大学4年間を振り返ると、小、中、高の学生生活を含め、全ての中で、一番自由であり、一番思い出深い4年間だったと思う。

入学は、やはり勉強のためであった。しかし、いざ通うと、勉強より大事とまでは言えないが、同じ位大切なものができたように思う。4年間の3分の1程度は休みであり、遊んでいた。確かに、世間一般の言う大学とは多少違う。専門の科目を学び、皆目指すものは同じであり、皆がライバルである。だからこそ、大学でできた友人は大切であったし、それはこれからも変わらないであろう。

朝が辛い実習、何の役に立つ？と思うような講義、スポーツ、英語、大学だからこそ、これ程にさまざまな分野の事柄を学び、経験できたのだと思う。時に、このままこの大学に通い続けていいのだろうか、と疑問を感じることもあった。強い意志がなかったのかもしれない。夢が消えかけたのかもしれない。それでも、一度踏み入れた道は最後まで突き進もう、と意地で頑張ったと思う。

しかし、卒業し、働き出した今、大学時代遊びすぎた事を少し後悔している他は、何一つ後悔はないし、この大学で学べたことに感謝と誇りを感じている。

「一卒業生の独り言」



千葉 直
(理学療法学科/H17.3月卒業)

こんにちは。私は現在、大学の諸先生方の熱い気持ちと自分自身の使命感に導かれ、むつという地域で理学療法士として働いております。いざ働き始めるとわからないことやつまづくことも多々ありますが、そんなときは大学で4年間過ごしたことが心の支えになっています。

まだあるの！？というくらいのレポートやテス

ト、慣れない環境での臨床実習、そして卒業論文や国家試験などが自分の体調不良にかかわらず襲ってきます。しかし、それらをすべて打ちのめすことができれば、今はつらくても後になれば自信になります。

また、大学生活ではいろいろな人間に出会います。私はその中で、人のこと、そして自分のことを深く考えられる機会がたくさんあったということが今の自分の一番の財産になっていると思います。周りの人たちはみな違う価値観を持っています。それを否定したくてもすぐには否定しないで、いろいろ吸収してみましょう。たまたま消化不良を起こすかもしれませんがいい勉強になります。授業も大切ですが、サークル活動、アルバイト、お酒の場（20歳以上）で友人と熱く語るなど大学生活でいろいろ学びましょう。

「挑戦した者勝ちの大学期間」



竹澤 紀子
(社会福祉学科/H17.3月卒業)

大学を卒業して3ヶ月が経ち、就職してから2ヶ月が経った現在、私は仕事に励む毎日を送っています。

私にとって大学期間は、多くの人との出会いと、責任を持って行動することを学べた、貴重な4年間でした。特に沢山の人の出会いは、大学生であるからこそその自由な時間を有効に活用できた結果であると思っています。また、責任を持って行動するというのは、それまでは親元において、様々な援助を受けていた所から、大学入学と共に経済的な面はともかく、その他の大部分は自分で決断し実行する環境に置かれたことによって、それに伴う結果にも自分で対応しなければならないという状況から、身を持って学ぶことが出来たものです。

大学期間は本当に楽しかったです。それでも大学期間のうちにもっと挑戦すれば良かったと悔やむ時があります。今は挑戦したくても時間的に束縛されているため難しいことも多いです。大学期間はより多くのことに挑戦した人の勝ちだと思うので、皆さんも躊躇わずに取り組んで下さい。

第3期生の就職・進学活動を振り返って

就職対策委員会

本学第3期生の卒業生165名のうち、ほとんどが保健医療社会福祉分野の実務者・専門職として社会に巣立っていきました。

第3期生への就職支援活動は、(旧) 就職対策専門部会を中心に全学体制で取り組み、主に次のような支援事業を行いました。

- 1 県内外の病院・社会福祉施設等に対する就職用パンフレット及び求人票の配布
- 2 学生と事業所人事担当者との直接面談を目的とした就職合同説明会の開催
- 3 模擬面接・小論文添削指導の実施

なお、大学としてはこれまでの3期にわたる就職対策を十分に検証したうえで、就職対策委員会を中心として、3学科の特性に配慮したより実効性のある就職対策を打ち出すため各学科と連携しながら、第4期生への就職支援を進めていきます。

【第3期生の進路状況】(単位：人、%)

()内は、前年実績

学 科	卒業者数	進学者数	就職希望者	就職者[うち県内就職者]	就職率
看護学科	104	3	100	98 [29]	98.0 (98.0)
理学療法学科	23	3	20	20 [8]	100.0 (100.0)
社会福祉学科	38	5	33	33 [18]	100.0 (91.7)
合 計	165	11	153	151 [55]	98.7 (96.7)

就職準備・面接・小論文に関する学科別全体講義の成果

就職対策委員会・人間総合科学科目講師
浅田 豊

毎年度恒例となった、4年生(第3期生)への就職ガイダンスが16年度前期に各学科において開催されました。そこでは、4年生にとって大変有益な、卒業生による就職活動等の報告を受けた形で、筆者は面接試験に備えるための理論と実践を中心とした講座を受け持ちました。同講座では、模擬的なペアワークを含む参加型のスタイルを採ったこともあり、「自己PRや志望動機を明確化することで、自分の興味分野や性格的特徴も確認・整理できた」、「自分の意欲をさらに喚起させる良い機会だった」、「頭で考えるだけでなく文章として書き出すことの重要性を実感した」、「自分の現在の実力や弱点を知ることができた」、「今後もこのような機会があれば参加したい」といった率直な感想からも、一定の成果が伺えました。

また、つづく16年度後期には第4期生を対象に、「就職活動に向けての基礎的な準備と心構え」として、①自分の目指す進路の、職種や地域、設置主体等の観点からの見定め、②病院・施設の理念や試験時期の把握を含む、情報の収集・管理・取捨選択・優先度付け、③自己学習の継続、④模擬試験や見学会への参加を通じた実践的トレーニング、⑤教職員や先輩などヒューマン・リソースの活用、の重要性に関して講じました。なお、この時のガイダンスでも、先輩からの体験談報告が大変充実しており、就職内定に至るまでの、すぐ上の先輩たちの実体験や具体的な学習・活動方法、活動のコツ等を聞くことができ、とても参考になっていたと思います。

さらに、17年度前期における、第4期生に対する学科別就職ガイダンスでは、個々の学生の主体性を重んじつつ、①変化する社会に対応できる保健医療福祉専門職としての可能性の追求、②自分の能力・適性に関する自己分析、③人々の健康と生活の質の向上を支えるために専門職としてどのような貢献をしていくかという基礎的ビジョン形成、等の基本理念のもと、面接・小論文に関する全体講義を行なっていきたいと思います。

第4期生の皆さんには、卒業研究や国試対策と並ぶ学部生生活の締めくくりとして、就職・進学活動において健闘されることを期待しています。また、第4期生の皆さんが、第3期生の先輩たちの充実した活動を参考にされながら、一人ひとりの目標を達成できるよう、就職対策委員として、最大限の支援をしていきたいと思っています。



学生自治会紹介

自治会長(社会福祉学科3年) 是川 幸恵



自治会メンバー集合!

昨年度行われました選挙によって、現在の自治会役員が結成されました。ここで、新自治会役員メンバーを役員別に紹介したいと思います。まず、自治副会長は三浦淳子さん(社会福祉学科3年)、佐藤香さん(社会福祉学科2年)、書記は佐々木萌さん(看護学科3年)、熊谷歩君(理学療法学科2年)、会計は山田美佳さん(社会福祉学科3年)、澤田侑一君(看護学科2年)、庶務は齋藤奈美さん(理学療法学科3年)、豊岡慎一君(看護学科2年)です。私を含め、9人の自治会メンバーと自治会担当の千葉たか子先生を中心に今年度の自治会活動を進めていきたいと思っています。

私たち自治会では、看護学科・理学療法学科・社会福祉学科それぞれの学生が、自分たちが学ぶ分野の枠を越えて交流が図れるように、また、学生の皆さんの大学生活が充実したものになるように、サークル活動や学校行事などを盛り上げていきたいと考えています。また、皆さん一人ひとりの大学生活がよりよいものになるように、皆さんの要望や意見を大学側に伝えたり、学内で何か問題となるようなことがあれば改善できるように呼びかけたりもしていきたいと考えています。

しかしながら、何に対しても活発な大学、学生が充実した生活を送れる大学は、教職員の方々も創り出すものではないと思いますし、自治会役員だけではどうしようもありません。学生の皆さんと一緒にこの大学を盛り上げ、そのような大学にしていきたいと考えていますので、皆さんよろしくをお願いします。

韓国語サークル

理学療法学科3年 廣瀬 美幸(顧問:鈴木孝夫教授)



サークル仲間達と李先生を囲んで

韓国語サークルは去年の後期から活動し始めたばかりのサークルです。このサークルでは、李先生という韓国出身の先生が韓国語を本格的に教えてくれます。今は週1回の活動ですが、先生も加えみんなでわいわい楽しく学んでいます。

また理学療法学科では韓国の大学との交流があり、韓国の学生が保健大学に來たり、こちらからも韓国の大学に勉強しに行ったりという学生の交流があります。ただ韓国語を勉強するだけでなく、韓国の人たちと直接話すこともできます。今はほとんどが理学療法学科の生徒で成り立っていますが、他の学科の生徒にも興味を持ってもらえたらいいと思います。

今年の3月には少人数で韓国に旅行に行ってきました。韓国はお隣の国ですが、日本と違うところがたくさんあって驚きもたくさんありましたが、おいしいものも食べてきてとても楽しかったです。

1年生の選択授業で韓国語はありますが、選択した人もしなかった人も、先生が丁寧に教えてくれるはずなので、ちょっとでも興味を持った人は活動に参加してみてください。



サークル風景

米国ベレノバ大学看護学生訪問

国際科長 リポウイツ 志村よし子

大きな荷物を抱え過ぎ八戸で一列車乗り遅れ、6人のベレノバ学生と3人の引率者が青森駅の階段を降りてきたのが5月14日（土曜日）の夕暮れ時でした。今回、国際看護比較論（3単位選択）の一環として本学での講義と課外見学、異文化交流で来青しました。ベレノバ看護学生は、1週間本学との交流を深め素晴らしい思い出を作り帰国しました。

■経緯

米国ペンシルバニア州にあるベレノバ大学の看護学部との交流は、3年前のアメリカ事前調査に始まりました。150年の歴史を誇るカソリック系の総合大学で、100年の看護教育の歴史を誇り、学生を大切にし、暖かい雰囲気は本学との学生交流に適していると考えました。翌年2004年は、ベレノバ大学から2人の教員が来青され、プログラムを練り、本年度2005年に6人の看護学部生の研修が実現しました。

■企画・内容

ベレノバ学生によるプレゼンテーションや教員のプレゼンテーションでは、活発な意見交換がなされました。本学でも日本の看護史、青森のすがた、青森の伝統医療、水子供養、老年保健と多面的講義がなされ、日本文化や医療制度への理解を深めました。また県病での看護管理実習、いちい荘老人施設見学、ゆーさ浅虫の地域医療を学びました。浅虫の課外授業は、列車を利用し、地域を歩き回り地域活動の始めとなった700年の赤松の大樹に感激しました。身体を動かし、自分の目で見て、地域の人との触れ合いが持てたプライマリケアの実際は、特に高い関心を示されました。

■青森での生活

規則正しく毎朝5時頃に起床し、フラワー温泉から始まりました。学生の中には、ご主人に子供をあずけての参加者もいました。今まで使用方法がわからなかった乾燥機も解明し、マエダや生協から日本食を購入し試食していました。夜間は大学周辺をジョギングしたり、体育館も活用していました。若いグループは、カラオケ、ボーリング、温泉などと忙しく餅や饅頭が大好きになった学生もいました。最後の日は晴天に恵まれ、八甲田山のハイキング、博物館めぐり、合浦公園サイクリング、ショッピング等と自由行動をエンジョイしていました。翌日は、奥入瀬に1泊し、その後京都の禅寺に泊まり、奈良、京都、広島と別行動し、24日に帰国しました。

■活躍したAUHW 学生ボランティア

国際科学学生ボランティアの活躍は、素晴らしかったです。訪問者は、予期していなかった歓迎会に、感激していました。全て英語で行われベレノバ学生も一生懸命日本語で答えようとしていました。お好み焼きで始まった夕食会は、日本を去る時もお好み焼きで終えたそうです。外国人の学内案内から始まったボランティア活動は、現在25人近くになり、歓迎会の企画、英語サインや地図の作成、自転車のリサイクル、平日の接待や週末の交流プラン等を組織的に行って下さいました。ゴールデンウィークも返上し、夜遅くまで辞書を片手に頑張りと、食堂には英語版メニューまで登場して感謝されました。

■将来の交流に向けて

スケジュール、研修内容、もてなしに関し5段階評価で尋ねた所、全てが5で10+++もありました。最も印象に残った事の質問には、多くの人との交わりをあげ、「熱心で暖かい本学の学生や教員に出会えたこと」と答えています。物怖じせず、こだわらず、何事もポジティブに受け止め、興味を持ってチャレンジしてゆくタフな姿は、活力にあふれ、私達もパワーをもらいました。来年は是非アメリカへとも勧められました。学生・職員的情熱で今回無事終了出来た事を感謝いたします。今後多くの国の学生と交流し、学び合える企画をしてゆきたいと思っております。



「祝！」博士後期課程開設記念式典

博士後期課程開設記念式典プロジェクト 鈴木 孝夫

平成17年4月6日、平成17年度本学入学式が挙行されました。入学生として健康科学部新入生とともに、大学院博士前期課程（修士課程）院生、そして博士後期課程の第1期生6名が無事に紹介されました。本年度開設に至るまでの2年間の経緯を振り返り、ひときわ感慨深い思いでした。平成17年4月、晴れてここに、本学大学院博士後期課程が開設されたのです。（開設までの経緯は「活彩！保健大学だより」第11号12ページをご一読下さい。）

開設を記念して、本学の開学記念日に当たる6月6日に開設記念式典ならびに記念講演、祝賀会を開催しました。午後2時30分より本学講堂で行われた記念式典には、来賓として県内外の多数の関係者のご臨席、多数の教職員・学生の出席するなか、新道幸惠学長の式辞、三村申吾青森県知事のご挨拶、川村佐和子研究科長による博士後期課程の紹介に続き、大島理森衆議院議員、遠藤正彦弘前大学長をはじめ4名のご来賓より祝辞を頂きました。新道学長は、「健康科学の学術研究をこれまで以上に探求する環境が整備され、県内外の保健医療福祉の研究拠点として前進したい。」と述べられました。

引き続き3時30分より、元京都大学総長で日本学士員会員の伊村裕夫・先端医療振興財団理事長が「高齢化社会と健康科学」と題して記念講演をおこない、「限られた寿命を健康で過ごすため、高齢者に多い疾患の対策を考えることが極めて重要であり、高齢者医療の在り方として、「科学の知」、「医療の知」、「臨床の知」を結集して対応すべきである。」と訴えられ、列席者に深い感銘を与えました。

5時15分からは本学交流センターに会場を移して記念祝賀会を行いました。発起人を代表して本学後



記念植樹

援会の西村昌平会長による挨拶、三上隆雄県議会議員による乾杯、祝宴、丸山安彦本学運営協議会委員の謝辞をもって無事お開きとなりました。祝宴では記念講演講師の伊村先生をはじめ、佐々木青森県医師会長、遠藤弘前大学長、そして新道学長、川村研究科長ほか多数の大学院関係者を囲み、和やかな歓談となりました。

また当日は、11時より記念式典に先立ち記念植樹も行われ、植樹は本学3期生からの卒業記念品として「は



記念式典

なみづき」を2本、そして博士後期課程の開設を記念して「こぶし」を2本、学長、副学長をはじめ、多数の教職員が見まもるなか、講堂横の野外音楽ステージ脇の東側斜面に植えられました。記念プレートも併せて設置されています。

県内外に本学博士後期課程の開設を知らしめた今、本学の新たな「知の創造」（普遍的な真理の探究の場）の起点としてはもとより、青森県そして全国の保健医療福祉の教育研究の拠点となることを切望いたします。

県内外で進学相談会開催

本学の教育内容や入試情報、就職実績、学生生活など、大学選択に関する情報を本学の教員から直接聞ける機会を設けるため、県内外の9会場で進学相談会を開催しました。

八戸市(5/18)を皮切りに、盛岡市(5/19)、仙台市(5/23)、山形市(5/30)、秋田市(6/7)、弘前市(6/9)、青森市(6/10)、函館市(6/27)、札幌市(7/9)と順次開催し、会場には高校生や進路指導担当教員、父兄など、約300の方が相談に訪れました。

訪れた相談者は、進路選択の情報を得ようと熱心に質問し、これに答える教員の話に真剣に聞き入っていました。



弘前会場

オープンキャンパスへようこそ!



イングリッシュ・カフェ

本学を志願する受験生がキャンパスを直接体験し、理解を深めることを目的に、6月19日(日)、オープンキャンパスを開催しました。

県内を始め、北海道・東北各県から高校生や父兄など約400の方が訪れ、午前中は各学科に分かれてオリエンテーションや模擬講義に参加しました。

昼食は交流センターの食堂を利用する方が多く、カウンターには長い列ができました。

午後は、各学科ごとの体験コーナーや相談コーナーのほか、イングリッシュ・カフェ、大学院コーナー、サークル紹介などを自由に見て歩き、キャンパスの雰囲気を楽しんでいました。

[大学院・学部編入学] 平成18年度入学者選抜試験のお知らせ

青森県立保健大学では、大学院及び学部編入学の平成18年度入学者を募集しています。
詳しくは、大学院及び編入学の「募集要項」をご覧ください。

連絡先/教務学生課入試担当 TEL017-765-2144 FAX017-765-2188 E-mail nyushi@auhw.ac.jp

大学院（健康科学研究科博士前期・後期課程）

募集人員	健康科学専攻 博士前期課程（修士）…………… 20名 博士後期課程（博士）…………… 4名
出願期間	平成17年8月22日(月)～平成17年8月26日(金)
選抜試験	平成17年9月10日(土)
合格発表	平成17年9月16日(金)

学部編入学（健康科学部）

募集人員	看護学科……………10名(3年次編入) 理学療法学科…………… 2名(3年次編入) 社会福祉学科…………… 4名(2年次編入)
出願期間	平成17年8月22日(月)～平成17年8月26日(金)
選抜試験	平成17年10月1日(土)
合格発表	平成17年10月11日(火)

＜新任・転入等＞



看護学科 教授
大串 靖子 (オオグシ ヤスコ)

他大学を定年退官して再就職の新任です。学部と大学院の昼間の授業の他に夜間8時20分までの授業が週2回あり、その準備に夜遅くまでかかっていますが、他の先生方はもっと遅くまで残っていらっしゃるようで、皆さんがんばっていらっしゃるんですね。



看護学科 教授 (健康科学研究科長)
川村 佐和子 (カワムラ サワコ)

父も母も江戸っ子、私も日本橋生まれで生粋の江戸っ子です。宵越しの金は持たず、火事と喧嘩は江戸の華という生活観から、とつぜん青森です。親族一同が心配しています。どうぞよろしくお願いいたします。



理学療法学科 教授
渡部 一郎 (ワタナベ イチロウ)

北海道大学のリハビリテーション科から参りました。これからの高齢者、障害者社会に対応できる地域リハビリテーション体制、人材養成を当地青森で目指していきたいと思っております。



社会福祉学科 教授
大山 博史 (オオヤマ ヒロフミ)

高齢者や思春期児童のメンタルヘルスが専門です。本県での勤務は2度目となります。青森を離れたとき、本県の「豊かさ」を実感しました。それにしても、青森の醤油はしょっぱいな〜。



社会福祉学科 教授
渡邊 洋一 (ワタナベ ヨウイチ)

北国に思いをはせて、着任した渡邊洋一です。両親は、母が保健所の保健師、父がレントゲン技師の長男として生まれ、子供の頃からなんとなく福祉の興味がありません。現在の研究は、地域社会の生活問題やコミュニティケアについてです。地域福祉論などを担当します。また、研究フィールドとして瀬戸内海の島や四国山地の町に通い詰めています。



人間総合科学科目 助教授
岩井 邦久 (イワイ クニヒサ)

産・官における食品、医薬、バイオの研究現場から、食と健康の研究や研究者の育成を標榜して保健大学へ移ってきました。己には「一志鉄如」、学生に対しては「春風接人」でありたいと思っています。



看護学科 助手
坂井 郁恵 (サカイ イクオ)

青森での生活にも「慣れてきたかなあ〜」と思う今日この頃。大学内で迷うこともだいぶなくなりました。ウロウロしている際、声をかけてくださった先生方、本当にありがとうございました。



看護学科 助手
杉本 晃子 (スギモト アキヨ)

生まれも育ちも神奈川県で、青森での生活は初めてです。青森の自然の豊かさにはとても魅力を感じています。ときにドライブ旅行や温泉でエネルギー補給しながら頑張っていきたいと思っています。



看護学科 助手
田中 広美 (タナカ ヒロミ)

こちらに来て多くの方の心の温かさに触れ、不慣れながらも充実した毎日を過ごしております。これから少しずつ青森の街を覚え、季節とともに変わる八甲田山の風景を楽しんでいきたいと思っています。



人間総合科学科目 助手
森永 八江 (モリナガ ヤエ)

福岡出身で、初めて福岡を離れました。街路樹の植込みに土筆や露の臺が生えている事に驚きました。食が専門ですので、食から青森に馴染んでいます。健康教室で県民の方々と出会える事を楽しみにしています。



健康科学教育センター 助手
千葉 敦子 (チバ アツコ)

青森県五所川原市出身です。学内外たくさんの方々とふれあい、良好なコミュニケーションを保ちつつ、自分らしさを失わない、そんな決意でがんばります。よろしくお願ひします。



健康科学研究センター 助手
駒田 亜衣 (コマダ アイ)

出身地の三重県からドミニカ共和国、京都での生活を経てこちらにきました。弘前公園の桜と横浜町の菜の花を見てその素晴らしさに感動し、見所たくさん青森生活が楽しみになりました。よろしくお願ひいたします。



人間総合科学科目 語学講師
Barry Kavanagh (バリー・カバナー)

I come from England and have been teaching English for 8 years, 7 of them in Japan. I am currently doing a Masters course in linguistics and hope this will aid me in my professional development. Aomori is a wonderful place to live and work in and yes I like snow!



事務局長
柏崎 勝 (カシワザキ マサル)

農林水産部では天候不順や大型クラゲの襲来に泣き、公営企業局ではラッコの赤ちゃん「モモタロウ」君の人工哺育の展開に一喜一憂してきました。さて、ここでは何が。



総務課 課長
岡本 健 (オカモト ケン)

廊下で学生達に出逢うと「今日は！」と挨拶をされます。「今日は」と返しながらか、何か「山」にいるような愉快な気分になります。登り・下りで擦れ違ふときに挨拶を交わす、そんな感じ。イイですねえ。どうぞ宜しく。



企画情報課 課長
坂本 芳人 (サカモト ヨシトモ)

4月、「企画」を冠したセクションに。私にとって「企画…」は多分に曲者。是非、今回はプラス方向へと願ひつつも、はや諦めがちにつき始め。心機一転、何事も「やる気」と言い聞かせ。結局、変わらぬ毎日。

<新任・転入等>



総務課 総括主幹
田中 寿一 (タナカ ジュイチ)

5月早々健康を害し、長期休暇をとってしまいました。そんなことから、今、一番重要だなと思っていることは健康です。これからは、健康に留意しながらあせらず一歩一歩仕事に取り組んでいきたいと思っています。



教務学生課 主査
櫻庭 知美 (サクラバ トモミ)

今までと全く違う環境に身をおき、毎日が!?!?の連続です。身体の衰えを感じてる今日この頃ですが、この毎日の刺激が私を若返らせてくれるのではないかとひそかに期待しています。



企画情報課 総括主査
千田 昭裕 (チダ アキヒロ)

年度途中の突然の異動で、上司からお話をいただいた時には、頭の中が真白状態。小説坊ちゃんの「うらなり君」の心境になりました(?)。0歳と2歳児かかえて、お父さんもう大変です。



企画情報課 主事
滝本 大 (タケモト ヒロシ)

赴任当初は、以前と全く違う職場の雰囲気戸惑い気味でしたが、最近ようやく慣れてきました。キャッチボールの相手を探していますのでよろしくお願い致します。



総務課 主査
檜山 律子 (ヒヤマ リツコ)

楽しいキャンパスライフを想像し、ちょっとドキドキして赴任。しかし現実…仕事に追われ、書類に埋もれそうになり、総務課長に不良な主婦といわれながら、あっという間に2ヶ月が経ってしまいました。



総務課 保健嘱託員
竹浪 幸子 (タケナミ サチコ)

学生さんと接しながら、『看護』を学んだ頃のことを思い出しております。日々の出会いを、緊張しながらも、愉しんでまいりたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

<昇任>

講師から助教へ
看護学科助教授
角濱 春美
助手から講師へ
看護学科講師
村松 仁
看護学科講師
鄭 佳紅
社会福祉学科講師
齋藤 史彦

<転出等>

東京事務所所長	長嶺 洋一 (事務局長から)	(退職)	田崎 博一 (看護学科教授)
工業総合研究センター次長	小関 公英 (事務局総務課長から)	(")	島崎 玲子 (看護学科教授)
あすなろ学園総括主幹	嶋津 静司 (企画情報課長から)	(")	福田 道隆 (理学療法学科教授)
東地方健康福祉こどもセンター主幹	八木千加子 (事務局主幹から)	(")	露木 敏子 (社会福祉学科教授)
三戸地方健康福祉こどもセンター主幹	小寺 順司 (事務局主幹から)	(")	赤坂 和雄 (人間総合科学科目教授)
県議会議事課主幹	其田 工 (事務局主幹から)	(")	吉川 公章 (社会福祉学科助教授)
県教育委員会主査	今村裕希子 (事務局主査から)	(")	坂江千寿子 (看護学科講師)
統計分析課主事	舘山 朋枝 (事務局主事から)	(")	玉熊 和子 (看護学科助手)
		(")	松谷 綾子 (理学療法学科助手)
		(")	ウィン ティー (人間総合科学科目語学講師)

編 集 後 記

開学7年目をむかえた我が青森県立保健大学、今年3月には、165名の第3期生の学部学生と、第1期生の修士修了生22名が元気よく社会に巣立って行きました。それと相前後して今年4月には新たに168名の学部新生と、11名の編入生、30名の大学院博士前後期課程の院生が新たに本学に加わり、キャンパスに新たな花が咲いたようです。

今年4月、大学の委員会組織変更に伴い、「活彩!保健大学だより」は広報記録委員会が担当することになりました。勘林委員長を始めとする旧委員会の皆様にはこれまでの業績と努力に心から労をねぎらい拍手する所

あります。今年からは松江始め以下の新しいメンバーで、当大学の「生き生きしたキャンパス風景や学生の活動」を伝えてまいりますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。
(広報記録委員長/松江)

◎ 広報記録委員会委員：松江一、竹森幸一、細川満子、山下弘二、八戸宏、廣森直子、森永八江、岡本健、坂本芳人、笹常春

◎ 広報記録委員会事務局担当：工藤直之、天内孝志、蛭沢幸子



青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1 TEL017-765-2000

編集・発行/青森県立保健大学広報記録委員会

大学ホームページ <http://www.auhw.ac.jp/>
(バックナンバーもご覧になれます。)